

平成 20 年度 第 1 回 海洋開発委員会 議事録（案）

日時：平成 20 年 7 月 1 日（火） 12:40～13:30

場所：倉敷市芸文館会議室

出席者：酒匂顧問，高山顧問，高橋委員長，関本幹事長，秋山，宇多，岸田（梅山委員の代理），遠藤，黒坂，川上，小島，風間（小峯委員の代理），諏訪，辻，永井，中原，中村(孝)，中村(真)，前野，三上，の各委員，中村(謙)特別委員，大塚，木村，五明，柵頼，佐々木，多田，古川，水谷，矢内の各委員兼幹事，伊藤，加藤，鈴木，武田，田島，森屋の各幹事

欠席者：佐伯顧問，諫山，沖，清宮，清水，泊，西，堀田，宮川の各委員，小林，松田の各特別委員，東江委員兼幹事

配布資料

資料-0 土木学会海洋開発委員会 平成 20 年度 第 1 回委員会 次第

資料-1 平成 19 年度 第 3 回海洋開発委員会 議事録（案）

資料-2,3 第 33 回海洋開発シンポジウムについて

資料-4-1 第 33 回海洋開発シンポジウム関連行事 見学会

資料-4-2 海洋開発シンポジウム 関連行事 海の移動教室

資料-5 第 34 回海洋開発シンポジウム 開催場所と開催日

資料-6 海洋開発委員会 小委員会 WG 構成（2008 年度）

資料-7 外海水導入システム研究小委員会

資料-8 沿岸防災施設のアセットマネジメント研究小委員会 活動報告

資料-9 順応的管理研究小委員会活動報告

討議内容

1. 高橋委員長挨拶

委員会活動に協力いただき感謝するとともに，今後いろいろな活動に取り組んでいくので協力を仰ぎたい．また，本日は有意義な委員会となるよう議論をいただきたい旨の挨拶があった．

2. 前回議事録の確認

議事録は各自ご確認いただき，加筆修正等あれば関本幹事長まで連絡することとなった．

3. 本年度シンポジウムについて

資料 2，3 により 論文は 224 編採択，論文集は 350 部発行した旨説明があった．また，開催日が例年より早くなったため，論文集の発送がぎりぎりになった旨説明があった．これについては今後改善を図るが，民間企業など 3 月末まで忙しいので論文提出スケジュールには配慮し検討することとなった．

また，7 月 1 日 12 時 30 分現在の参加者は，300 名で例年より出足が早かった．

資料-4 により，見学会と海の移動教室の参加者およびスケジュールの報告があった。

4. 次回シンポジウムの開催場所と開催日

資料 5 により，第 34 回シンポジウムが関東地方整備局ならびに横浜市の協力を得て，来年で開港 150 周年を迎える横浜市開港記念館にて開催される旨報告があった。

5. 委員会の活動について

資料 6 により，2008 年の委員会，小委員会，WG の組織（案）について説明があった。活動内容について意見があれば幹事会あるいは改革小委員会までいつでも連絡して欲しい旨案内があった。

6. 外海水導水研究小委員会 活動報告

資料 7 により，6 月 10 日に鉄鋼連盟にて受託研究の成果報告を行ったことおよび今年度はテーマを絞って研究を深める予定であるとの報告があった。

7. 沿岸防災施設のアセットマネジメント研究小委員会 活動報告

資料 8 により，小委員会の活動報告があった。科研費による外部資金の獲得を目指したが不採択となったこと次回の小委員会は 10 月 3 日である旨報告があった。これについて，技術的な積み上げである研究成果を，意思決定のあるところに意見として伝えることができないかという意見があった。これに対し海洋基本計画を活用することが考えまた小委員会でインパクトのある成果を出すなどトータルで考える必要があること，災害は必ず来るのでそのときに役立てるよう準備しておくことが大切であるとの意見があった。

8. 順応的管理研究小委員会

資料 9 により，パネル展への参加報告および SWS アジア湿地会議への参加していききたい旨の報告あった。今後はパンフレットやガイドラインの作成などを行って行く予定であることが説明された。

8. 顧問からの挨拶

高山顧問から，「委員会の活動が活発に行われており非常に頼もしい。地球温暖化をはじめこれから何をすべきかを議論して進めていただきたい。」旨の挨拶があった。

酒匂顧問から，「海洋開発については，日本は海外に技術的に遅れを取っており，プロジェクトの推進が必要であることが国のトップに認識されつつある。海洋開発に関する民間をはじめとする活動がこの委員会の活動につながることを期待する。」旨の挨拶があった。

以上